

「神は我々と共におられる」

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。(マタイ 1章 23節)

クリスマスを来週に控えた本日の礼拝にお招きを頂き、心より感謝いたします。
本日は、マタイによる福音書1章18節～25節の御言葉より、ヨセフの信仰を通して、
主の恵みに与ることができたら幸いです。

聖書は、ヨセフを、「正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。」(1:19) と書いています。

この言葉にヨセフの信仰と人柄が、描かれています。ヨセフは、正しい人と言われるように、当時の律法の教えに誠実に従い、又、人としても、愛の深い人柄であったことを読みとれます。ヨセフは、律法に忠実であればある程、マリアが婚約中に身ごもったことを知ると、彼女をそのまま、受け入れることはできない。又、マリアを愛すれば愛する程彼女を傷つけない、と考えた。

ヨセフは、マリアとの結婚を諦める、と、ひそかに決意をした。ところが、そのヨセフの人生観は、夢に現れた天使の言葉によって見事に変えられた。

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである」と告げられた。ヨセフは、この言葉によって、二つの事の決意を求められた。一つは、恐れずに妻を迎えること。もう一つは、マリアの胎の子は、聖霊によるものであったこと、これを信じ、受け入れることであった。

この決意に導かれるまでには、彼には、大きな葛藤があったことであろうと思います。しかし、彼には、信仰があった。神のみ業は、人間の知識や知恵を超えた出来事によって、救いの出来事を生み出す。この信仰が、この世における最高、最大の恵み「メシアの誕生」をもたらした。そして、「インマヌエル・神は我々と共におられる」。この真実をヨハネ自ら体験すると同時に、全ての民に恵みの道を開いたのである。